

中央区内景气动向调查

令和3年10月调查结果

令和3年11月25日

中央区

総 括

令和3年10月の動き

中央区内における10月の現状判断D Iは合計で58.9と、前回調査から20.1ポイント上昇している。景気の先行き判断D Iは合計で63.0と、前回調査から15.6ポイント上昇している。

図表 景気の現状判断D I、先行き判断D I（合計）

(D I)	令和3年			前回調査 からの変化
	6月	8月	10月	
合計				
現状判断D I	42.7	38.8	58.9	(20.1)
先行き判断D I	60.4	47.4	63.0	(15.6)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した50人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年6回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約1週間で、令和3年10月調査の調査票発送は10月7日（木）、回答期限は10月18日（月）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体50名に対し、有効回答客体は48名、有効回答率は96.0%であった。

7 DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DIを算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

1 景気の現状に対する判断

3か月前と比較しての中央区内における現状判断DIは合計で58.9と、前回調査から20.1ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連DIは64.1と、前回調査から25.1ポイント上昇し、企業動向関連DIは54.0と、前回調査から15.5ポイント上昇している。構成比では、「やや悪くなっている」と回答した人の割合が32.5ポイント減少し、「やや良くなっている」と回答した人の割合が31.5ポイント増加した。

図表1-1 各分野における景気の現状判断DIの推移表

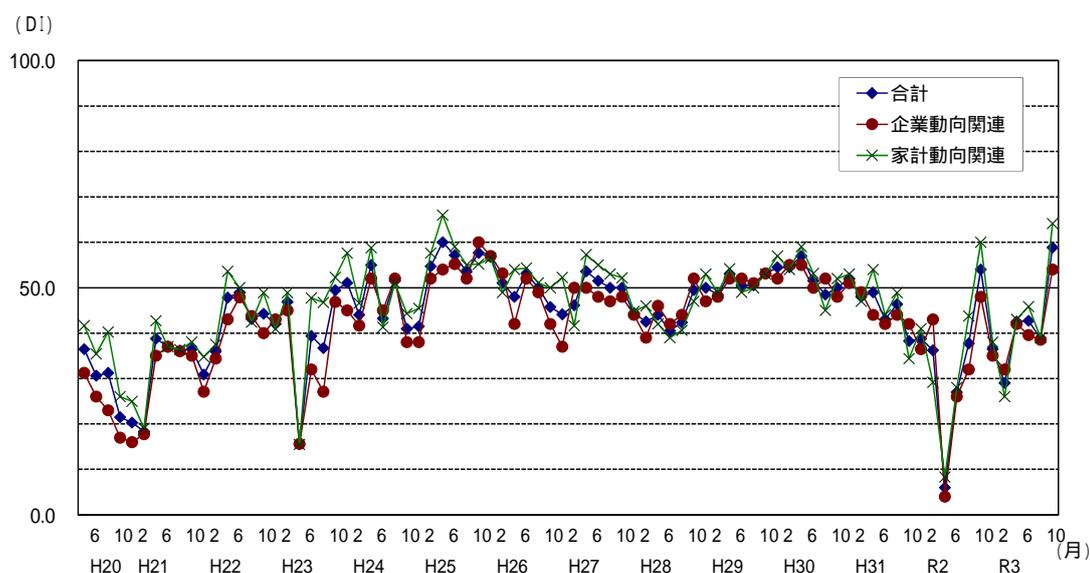
(DI)	令和3年			
	6月	8月	10月	(変化幅)
合計	42.7	38.8	58.9	(20.1)
家計動向関連	45.8	39.0	64.1	(25.1)
小売関連	41.1	33.9	64.3	(30.4)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	60.7	42.9	65.0	(22.1)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	39.6	38.5	54.0	(15.5)
製造業	40.0	35.0	50.0	(15.0)
非製造業	39.5	39.5	55.0	(15.5)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1-2 構成比

年	月	良く	やや良く	変わらない	やや悪く	悪く
		なっている	なっている		なっている	なっている
令和3年	6	0.0%	18.8%	43.8%	27.1%	10.4%
	8	0.0%	10.2%	40.8%	42.9%	6.1%
	10	2.1%	41.7%	45.8%	10.4%	0.0%
(変化幅)		(2.1)	(31.5)	(5.0)	(-32.5)	(-6.1)

図表1-3 各分野における景気の現状判断DIの推移



2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断DIは合計で63.0と、前回調査から15.6ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連DIは67.4と、前回調査から14.4ポイント上昇し、企業動向関連DIは59.0と、前回調査から17.3ポイント上昇している。構成比では、「やや良くなる」と回答した人の割合が29.5ポイント増加し、「やや悪くなる」と回答した人の割合が16.2ポイント減少した。

図表2-1 各分野における景気の先行き判断DIの推移表

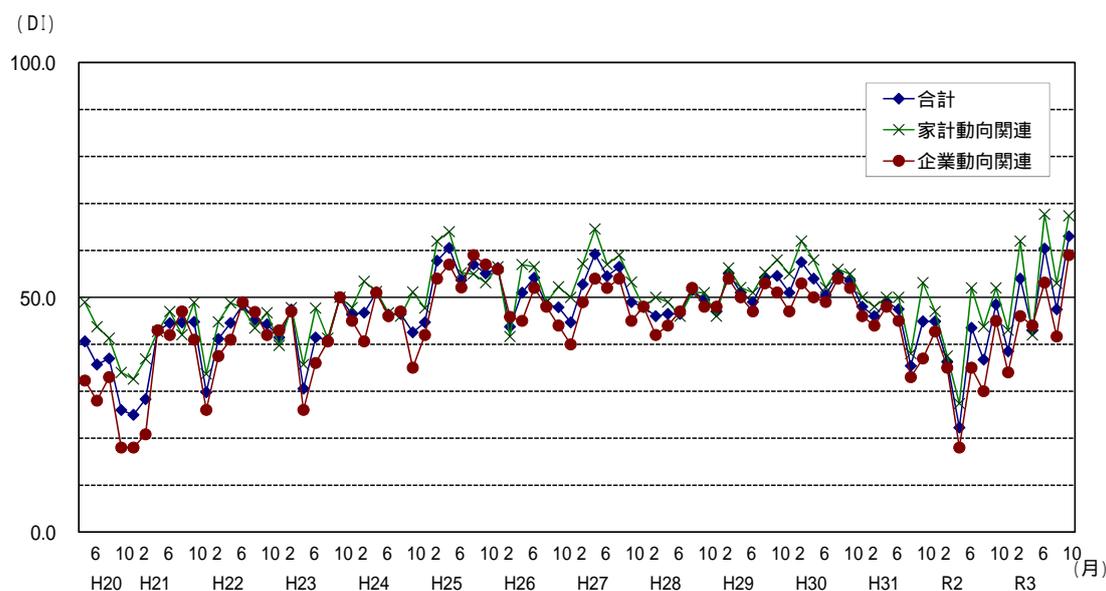
(DI)	令和3年			
	6月	8月	10月	(変化幅)
合計	60.4	47.4	63.0	(15.6)
家計動向関連	67.7	53.0	67.4	(14.4)
小売関連	66.1	50.0	66.1	(16.1)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	67.9	53.6	75.0	(21.4)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	53.1	41.7	59.0	(17.3)
製造業	55.0	40.0	65.0	(25.0)
非製造業	52.6	42.1	57.5	(15.4)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2-2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
令和3年	6	8.3%	41.7%	35.4%	12.5%	2.1%
	8	2.0%	18.4%	51.0%	24.5%	4.1%
	10	6.3%	47.9%	37.5%	8.3%	0.0%
(変化幅)		(4.3)	(29.5)	(-13.5)	(-16.2)	(-4.1)

図表2-3 各分野における景気の先行き判断DIの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

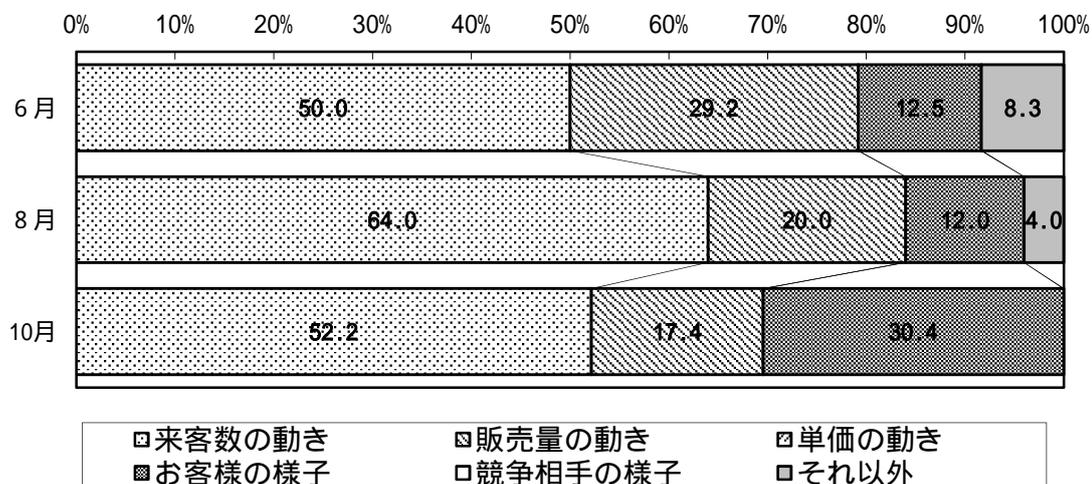
(D I)	令和3年		
	6月	8月	10月
合計	33.3	29.1	44.8
家計動向関連	30.2	23.0	48.9
小売関連	28.6	19.6	44.6
飲食関連	-	-	-
サービス関連	39.3	32.1	55.0
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	36.5	35.4	41.0
製造業	35.0	30.0	30.0
非製造業	36.8	36.8	43.8

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

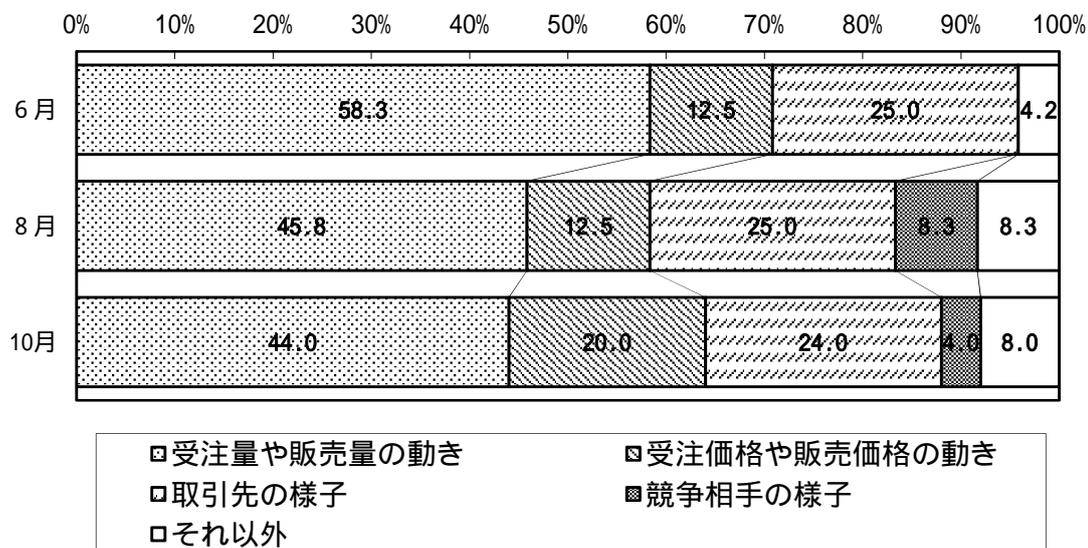
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	一般小売店〔文具〕(販売担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言解除後、来客数が増加している。新型コロナウイルス感染者数も減少している。
	やや良くなっている	一般小売店〔和菓子〕(経営者)	お客様の様子	・人が流れるようになり、人出は多くなっているもの。来客数増とまではなっていない。
		一般小売店〔靴〕(店長)	来客数の動き	・夜19時以降に来店する客が少しずつ増加してきている。
		百貨店(総務担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言解除後は、平日、休日共に来客数が前年比で2割増加している。食品など生活必需品以外のニーズも増大している。
		百貨店(総務経理担当)	来客数の動き	・前年は9月から、今年は8月から来客数が増加しており、10月以降も期待している。
		百貨店(広報担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染者数の減少により、客の購買マインドが上昇している。買上率が上昇傾向にあり、来客数も回復基調である。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・今回の新型コロナウイルス感染第5波は、感染者数も大幅に増加し、緊急事態宣言が長期化したため、来客数は前年比で85%となっていたが、解除後は来客数が順調に戻りつつある。
		高級レストラン(副店長)	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されたので、少人数の集まりの予約が増えている。
		一般レストラン(経営者)	お客様の様子	・今月から酒類を提供できるようになったので売上が伸びている。提供できる時間が20時までと、1時間延びただけでも全然違う。
		都市型ホテル(経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍のなか、緊急事態宣言が解除され、人の動きが少しずつ戻ってきている。
旅行代理店(店長)	来客数の動き	・10月に入ってから来客数が戻り始めているが、単価は低い傾向にある。少人数かつ近場が多いため、販売額は振るわない。		
変わらない	百貨店(総務担当)	お客様の様子	・長期にわたる緊急事態宣言が解除され、人流が活性化しつつあるものの、具体的な消費活動が戻るにはまだ時間を要する。	
		高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言は解除されたものの、都内では営業時間は21時まで、かつ1グループ4名まで、酒類提供は20時までとの縛りがあり、従前のような予約状況には程遠い。年末までに戻ればと願うのみである。
		一般レストラン(経営者)	販売量の動き	・先日メディアに当社が取り上げられ、売上が良くなっている。これにインバウンドが加われば更に良い。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響が少しずつ薄れてきているが、販売数に伸びがみられず、例年どおりとなっている。
	やや悪くなっている	一般小売店〔事務用品〕(営業担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言は解除になったが、来客数は30%以上減少しており、人が増えた印象は全く感じられない。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、今まで控えていた外食や旅行にお金を使う傾向になってきているため、食品スーパーでの購買が減ってきている。
		スーパー(店長)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いているため、身近なスーパーよりも外出での出費が増えると予想している。
悪くなっている	-	-	-	
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	建設業(営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・新型コロナウイルスの収束が進めば、景気は上昇する見込みがある。
		卸売業〔繊維・衣服等〕(営業担当)	受注量や販売量の動き	・夏頃に比べればまだ良いが、地域によって動きにばらつきがあり、回復にはまだ時間が掛かりそうである。
		卸売業〔機械器具〕(営業担当)	受注量や販売量の動き	・今月は思ったより受注残がある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・3か月前と比較すると、見込んでいた予算額に対して、15%程度上乗せして案件を獲得できている。
	変わらない	出版業（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルス禍の巣籠りのなかでの消費性向を上げ潮とする業種と、飲食業、観光業のようなダメージ業種との格差がますます目立っている。
		出版業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、街の人流は増加しているが、まだ受注量、販売量に変化はみられない。
		印刷業・製本業（営業担当）	取引先の様子	・業種によって好不調がまちまちだが、全体的に見ると、良い方より悪い方が多いと感じる。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年同月に比べて売上は減っているものの、やや注文が増えてきている。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・受注量はかなり少なく、解約の申込みが多いが、事務所を縮小して新たな環境を整える企業もちらほら出てきている。
		不動産業（企画担当）	競争相手の様子	・オフィスニーズは全般的に堅調なものの、ビルの築年数や規模、立地等により、勝ち負けが分かれているようにも見受けられる。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・やや悪い状態が継続している。
	やや悪くなっている	経営コンサルタント	取引先の様子	・緊急事態宣言は解除されたものの、客足の戻りが鈍い。時短営業を守らない飲食店にはぎわっている。
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響で、市場の動き、ニーズが大きく変わってきていると感じることがある。
	悪くなっている	-	-	-

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般小売店 [文具] (販売担当)	・新型コロナウイルス感染者数の減少による安心感があり、消費が活発になる。新内閣への期待感もある。
		一般レストラン (経営者)	・年末を迎えて市場が悪くなることはないともみている。
	やや良くなる	一般小売店 [和菓子] (経営者)	・政治がどう変化するか分からないが、今まで抑え込まれていたものが戻る力が大きい。
		一般小売店 [靴] (店長)	・東京都の外出規制が緩和されれば、入出が増加する。
		百貨店 (総務担当)	・年末商戦、お歳暮、クリスマスと、来店を促す機会が増えることで、景気は月を追うごとに回復する。
		百貨店 (総務経理担当)	・新型コロナウイルス感染者数の減少によるリベンジ消費がある。
		百貨店 (広報担当)	・このまま新型コロナウイルス感染者数が減少傾向に転じれば、これまで外出や消費を抑制していた中間層の動きにも少しずつ勢いが出る。若しくは、反動で伸長していく。
		コンビニ (店長)	・緊急事態宣言の解除後、人流が増え、購買が上がっている。次の感染拡大までは、景気は緩やかに上向く。
		衣料品専門店 (店長)	・今まで「外出予定がないから衣料品は必要ない」と言われることが多かったが、少しずつ外出機会が増えている。
		高級レストラン (経営者)	・年末に向けて新型コロナウイルスのワクチン接種等の効果が出てきて、宴会の予約が入ってくる。
		都市型ホテル (経営者)	・人々がある程度新型コロナウイルス慣れして、注意しつつそれなりに行動するようになり、消費も上向いてくる。
		旅行代理店 (店長)	・Go To Travel キャンペーン再開や行動制限の緩和など、前向きな方向になりつつあるが、新型コロナウイルス感染者数が増加すると、すぐに来店、申込数が減少することが予想される。
		通信会社 (営業担当)	・年度末に向かって人の動きもみられるようになってくる。
		競馬場 (職員)	・周囲の入出が多くなっている。
	変わらない	一般小売店 [食品] (店長)	・ようやく緊急事態宣言が解除され、少しは人流が戻ってきたものの、先行きにはまだまだ不安が残っており、見通しが立たない。
		百貨店 (総務担当)	・年末年始に再び新型コロナウイルスが感染拡大するか否かにより来年の動向は変わってくると思われるが、2～3か月先は一進一退の状況が続く。
		スーパー (店長)	・緊急事態宣言の解除により突発的に落ち込んだが、落ち着いたら元に戻ると予想している。
		スーパー (店長)	・新型コロナウイルスの感染状況に左右される。現在は落ち着いた動きを示しているものの、外食やショッピングセンターでの買物、レジャー等での出費が増えれば、小売はその分今までの売上を取られてしまう。
		一般レストラン (経営者)	・今月は良いかもしれないが、また緊急事態宣言が発出され酒を出せなくなったら売上が減るので、分からない。
やや悪くなる	一般小売店 [事務用品] (営業担当)	・本来なら年末に向けて良くなる傾向があるが、今年は新型コロナウイルス感染第6波への不安やテレワークで、全く良い材料がない。	
	高級レストラン (副店長)	・新型コロナウイルス感染第6波が確実に来ると言われているので、当分は景気が良くなることはない。	
悪くなる	-	-	
企業 動向 関連	良くなる	卸売業 [繊維・衣服等] (営業担当)	・新型コロナウイルスの感染状況によるが、これまでのように悪くなることはないともみている。
	やや良くなる	新聞業 (営業担当)	・緊急事態宣言解除による経済の活性化に期待している。
		出版業 (経営者)	・新型コロナウイルスの収束傾向が消費の活性化をもたらす。
		印刷業・製本業 (営業担当)	・新型コロナウイルスの感染状況次第だと思うが、今後感染者数が爆発的に増加することなく、うまく付き合っていければ、徐々に良くなっていくとの希望的観測を持っている。
	建設業 (営業担当)	・新型コロナウイルスが収束していけば、景気は上向きになる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		金融業〔証券〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響による自粛等の規制が順次緩和されつつある。良しあしはさておき、今まで動きようのなかった旅行、飲食、ブライダル等の業種は、何とか巻き返しを図るため、様々に動き出している。これがどこまで波及するかはともかく、一定の特需が生じることが考えられる。	
		不動産業（企画担当）	・緊急事態宣言の解除により、オフィス内見の件数が増え始めている。マンションについては、引き続き好調である。	
		卸売業〔飲食料品（鮮魚）〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染第5波が収束し始め、客足が戻ってきている。	
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	・例年どおりなら年末に向けて受注量が増えてくる。	
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・一時的かもしれないが、新型コロナウイルスが落ち着きつつある状況により、取引先からもやや大きめの臨時案件発注が増えてきている。	
	変わらない		出版業（営業担当）	・新政権の実力は不透明で、総選挙の結果も出ていない。また、寒くなってきて新型コロナウイルスがどうなるかも分からない状態では、2～3か月後の景気判断は難しいが、今のところ良化する要素は見当たらない。
			建設業（営業担当）	・人手不足のために次の工事を受注できない。
			建設業（経営者）	・新型コロナウイルス禍のなか、先行きが見えにくい。
			建設業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いてきているが、経済全体に警戒感があるため、変わらないとみている。
			輸送業（従業員）	・売上額、量共に急には多くならない。
			通信業（営業担当）	・新型コロナウイルス禍でまだ先が見えない。
			卸売業〔機械器具〕（経営者）	・特別良い材料がないので、発注量が増える見込みがない。
			卸売業〔機械器具〕（支社長）	・受注量は見込み通りに推移しているが、収益面に課題がある。資機材のコストも上昇傾向にあるので注視している。
			経営コンサルタント	・人々の間に警戒感が残っており、元に戻るには時間を要する。2～3か月後はインフルエンザの流行も警戒しなければならぬため、より減速傾向になる。
やや悪くなる		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（管理担当）	・取引先の様子から判断している。	
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・変化が生じる要因が特に見当たらない。	
悪くなる		金融業〔証券〕（営業担当）	・金融市場では、中国の不動産リスク、原油価格の上昇により、インフレ圧力の上昇など様々なリスクがある。これらの変動要因がある程度落ち着いてくるのは、まだ先である。	

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連		25
	小売関連	14
	商店街・一般小売店	5
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	5
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	0
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	7
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	2
	通信会社社員	2
	レジャー施設関連	2
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	1
	その他サービス	0
	美容室経営者・従業員	0
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連		25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	5
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	5
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0